

## 第4章

### 青梅市教育委員会の 学力向上に関わる取組について

## I 青梅市教育委員会の学力向上に関わる取組について

青梅市教育委員会では、教育目標にある「自ら学びを考え行動する、個性と創造力豊かな人間」の育成および青梅市教育推進プラン（改訂版、平成 23 年 3 月）の柱 2「社会のよき形成者となるために」の(3)自ら学び、自ら考える力を育成する、提言 1「学力向上に向けた取組の推進」を踏まえ、次のような取組を行っている。

- 1 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の実施  
児童・生徒の「確かな学力」の定着と伸長を図るために東京都教育委員会が実施している「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を実施し、その分析結果を基に、学力向上施策の充実を図り、市内各小・中学校における授業改善を推進する。
- 2 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の報告書の作成  
「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果の分析を行うことにより、課題を明らかにし、その解決策としての授業改善のポイントを示した。報告書を作成し、市内各小・中学校に配付し、学校における授業改善の具体的な取組を支援する。
- 3 授業改善推進プランの作成・提出依頼  
市内全小・中学校に対して、国や都の学力調査の結果や第 1 学期の児童・生徒の学習状況、評価の結果等を基にした「授業改善推進プラン」の作成を依頼し、提出を求めることで授業改善を推進している。
- 4 学力向上推進年間指導計画の作成・提出依頼  
市内全小・中学校に対して、学力向上に関する課題解決に向けた年間計画の作成を依頼し、提出を求めることで、学力向上を推進している。
- 5 青梅市教育委員会研究指定校の設置  
教育課程の実施に伴う学校の教育課題を焦点化し、実践的な教育活動についての研究を通し、特色ある学校教育の創造に向けた提言を市立各学校および保護者、地域に行う。このことによって、青梅市の学校教育の活性化を図るとともに教育水準を高め、開かれた学校づくりを推進する。
- 6 「学力向上推進委員会」の設置  
青梅市の学力向上施策に関する検討を行う委員会（各小・中学校の代表、担当校長、副校長から構成）を設置することにより、青梅市教育委員会と学校との連携を強化する。
- 7 学校訪問の実施  
教育委員会訪問や指導室訪問等を通して各校の授業改善の取組状況を確認するとともに指導・助言を行う。

平成27年度 青梅市教育委員会 学力向上5カ年計画

施策等	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	目標
家庭学習の定着および充実	児童・生徒向けの啓発資料の作成	児童・生徒、保護者への啓発資料の見直し、配布	配布 保護者・市民向け家庭学習講習会	児童・生徒、保護者への啓発資料の見直し、配布	配布 各校ごとのPTA主催家庭学習の研修会	東京都の平均正答率を上回る
習熟度クラスおよび少人数クラスの導入	新規導入校の検討	指導方法の工夫・改善	小学校算数・中学校数学学習熟度別指導を中心に行う。(東京方式)			
放課後授業および土曜日授業の推進	・サタデースクール実施要領の策定 ・対象校の選定 第二中学校区 第三中学校区	2中学校区でモデル的試行 第1回実態調査・分析	6中学校区に拡大して実施	全市的に実施 第2回実態調査・分析	次期事業計画の策定	
都の学力向上関連事業の活用	学力パートナーシップ事業(第二中学校区)	発表 成果検証、他校に活用	学力ステップアップ推進地域指定	学力ステップアップ 成果検証	学力ステップアップ成果検証	
学力向上推進委員会による取組	学力調査の分析、授業改善策の提示(報告書の作成)	保護者・市民向け家庭学習講習会			各校ごとのPTA主催家庭学習の研修会	
学力向上のための長期計画	5カ年計画の策定	施策ごとの細部調整	見直し	施策ごとの細部調整	次期計画の策定	
学校による学力向上推進計画の策定	計画案を学校に例示	学力向上推進計画の全校策定	学校訪問等における指導・助言	効果的な取組の他校への情報提供 学力向上推進計画の見直し	次期計画の策定	
全国学力調査等の市の平均正答率等公表	全国結果の公表(広報・HP)	分析結果を付してHP公表				
	都結果の公表(HP)	学力向上推進委員会報告書のHP掲載				

### Ⅲ 学力向上推進委員会の取組

#### 1 学力向上推進委員会

##### (1) 目的

各校における学力向上策および具体的な授業改善策を踏まえ、青梅市としての学力向上に向けた取組について検討を進め、提言する。

本年度の活動の重点は、課題解決をするために必要な「考える力」を育む授業づくりを具現化する手立てを検証する。

##### (2) 平成26年度 学力向上推進委員会の取組

平成25年度の各校における「児童・生徒の学力向上を図るための調査（東京都）」の分析結果等を踏まえ、「考える力」を育む授業づくりに向けた指導資料を作成する。

##### (3) 平成26年度 学力向上推進委員の構成について

各小・中学校長は、自校の教員の教科の専門性や人材育成の観点から1名を委員として推薦する。（小学校、中学校から1名、教科等の指定はないが、各校において校内研究の担当者であること。）

##### (4) 平成26年度 学力向上推進委員会の進め方について

平成25年度学力向上推進委員会の成果と課題を踏まえるとともに、各校における学力調査、授業改善プランの検証結果から、「子供が勉強したいと思う授業づくり」についての提言を検討する。※小学校を3部会、中学校は2分科会に分ける

#### 2 推進委員会取組経過

月・日（曜日）	推進委員会	主 な 内 容
5月13日（火） 14:30～16:00	第1回推進委員会	・学力向上推進委員会の目的、重点事項、進め方、年間計画、役割分担などについて
6月17日（火） 14:30～16:00	第2回推進委員会	・子供たちが勉強したいと思う授業についての協議 ・子供たちに十分考えさせることができる授業についての協議 ・指導・講評
9月5日（金） 14:30～16:00	第3回推進委員会	・考えさせる授業の授業構成について ・グループ毎に協議
10月14日（火） 13:40～16:00	第4回推進委員会	・小学校算数 研究授業 ※河辺小学校
11月27日（木） 13:30～16:00	第5回推進委員会	・中学校英語 研究授業 ※泉中学校

### 3 学力向上推進委員の構成について

青梅市学力向上アドバイザー

東京女子体育大学教授・常任理事 田中 洋一 先生

学力向上推進委員会 担当校長

第五小学校長 根本 美恵子 先生

第三中学校長 井上 雅子 先生

学力向上推進委員会 担当校長

第四小学校副校長 鎌田 博志 先生

霞台中学校副校長 久保 政幸 先生

学力向上推進委員会 推進委員

1	第一小学校	大矢 光成	15	藤橋小学校	藤貫 純平
2	第二小学校	加藤 淳子	16	吹上小学校	入倉 喜久子
3	第三小学校	室井 亮二	17	東小学校	浦 浩蔵
4	第四小学校	小野 光典	18	第一中学校	蓑毛 晶
5	第五小学校	村瀬 真紀子	19	第二中学校	五十嵐 慧
6	第六小学校	岩崎 典子	20	第三中学校	元家 史子
7	第七小学校	武本 正明	21	西中学校	渡邊 健
8	成木小学校	水越 隆夫	22	第六中学校	本村 亜紀子
9	河辺小学校	平井 哲	23	第七中学校	助川 美貴子
10	新町小学校	有泉 力	24	霞台中学校	山本 英明
11	霞台小学校	松川 靖弘	25	吹上中学校	松井 悟
12	友田小学校	高野 理佳	26	新町中学校	山辺 弘明
13	今井小学校	矢部 久美子	27	泉中学校	柳町 啓次
14	若草小学校	蓮尾 幸枝	28	東中学校	山下 愛子

#### 4 研究授業について（研究テーマ等）

<研究テーマ>

## 主体的に学習し考える子供を育む授業づくり

### (1) 学習指導案の形式および内容について

第3回の学力向上推進委員会の開催にあたり、次の点に留意し、学習指導案を作成し持参する。

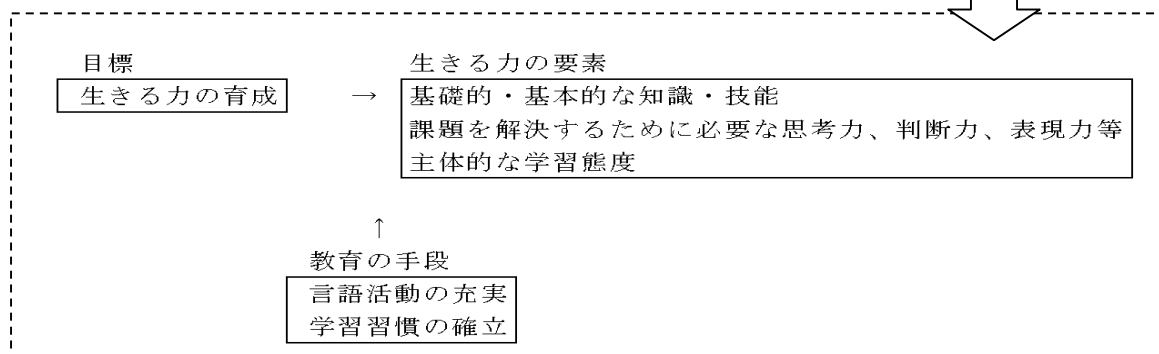
- ① 第2回で協議した内容（力の付く授業に必要な授業の要素は何か？）をもとに、児童・生徒が主体的に学習し考える場面を設定した学習指導案を作成する。
- ② 学習指導案の形式は東京都若手教員育成研修に示されている学習指導案の形式にする。
- ③ 2学期以降に実施する指導内容（単元）で作成する。
- ④ 当日の委員会には、作成した学習指導案を10部する。

### (2) 学習指導要領が求める学力（総則教育課程編成の一般方針）

※東京女子体育大学教授 田中洋一先生の資料より

学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、生徒（児童）に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、生徒（児童）の発達の段階を考慮して、生徒（児童）の言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒（児童）の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。 ※下線および網かけはアドバイザー

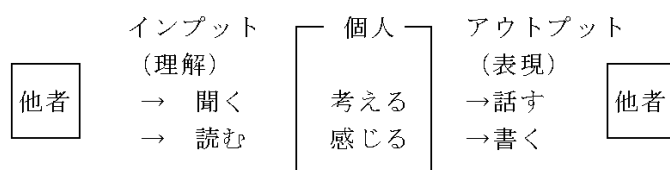
学習指導要領の各教科に言語活動を伴う学習が明記された



※「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」、「学習意欲」のバランスが大切であり、この3要素が相乗効果をもたらす。

### (3) 言語のはたらき、「伝達」と「思考」について

言語のはたらき  
「伝達」と「思考」



言語が伝え合う媒体であると同時に、「考える、感じる」際の道具となる。

「声を大きく」「相手の顔を見て」などは伝達の技術「話す内容をまとめて」「相手に分かりやすく」「説得力をもって」などは思考を伴う活動となる。

(4) 子供が主体の授業づくりについて

ア 学習の流れ

	『子供主体の授業』の展開例	具体的な指導例
<b>導 入</b>	<p>☆子供たちが見通しをもつ 課題を把握する</p> <p><b>学習課題をつかむ場面を設定した</b></p> <p>□子供たちは課題をつかんでいた。 □子供たちは解決の見通しをもつことができた。</p>	<p>○子供たちの関心・意欲を高めたり、不都合感を感じさせたりする問題を提示した。 ○子供たちが課題をつかんだタイミングで課題を板書した。 ○見通しについて、ペアで相談させたり、前で説明させたりして、既習内容を思い出させ、全ての子供に解決の見通しをもたせた。</p>
<b>展 開</b>	<p>☆子供たちが問題解決を図る</p> <p><b>一人で考える場面を設定した</b></p> <p>□子供たちは考えを書いたり、表したりしていた。</p> <p>☆子供たちの知識や考えを深める活動</p> <p><b>集団で交流する場面を設定した</b></p> <p>□子供たちは、自分の考えとその理由を伝えていた。 □子供たちは、学習課題を意識した発表や話し合いをしていた。</p>	<p>○子供たちが考える適切な時間を設定した。 ○机間指導を行い、個に応じた頑張り認め、適切な声かけができた。 ○必要に応じて、意図的に指名をした。 ○ペアで考えを伝え合う時間をつくる等、一人一人に考えを発表させた。 ○子供のノートをスクリーン等に映し出して前で発表させる等、学習のゴールを意識した発表をさせた。 ○発問の後に数秒の間をとって指名したり、ペアで話し合わせたりして、全員が考えを深められるようにした。</p>
<b>終 末</b>	<p>☆子供たちが学んだ知識や技能を振り返る(つかう)</p> <p><b>ふりかえる場面を設定した</b></p> <p>□子供たちは、学んだことを自分の言葉で書いたり、発表したりできた。 □子供たちは、学んだことを使うこと(確認問題等)ができた。</p>	<p>○授業の流れがわかる板書ができた。 ○課題を主語にして書かせる、キーワードを入れて書かせる等、まとめ方を工夫させた。 ○本時の学習を確かめる確認問題(宿題)等を出した。</p>

イ 子供たちに力を付けさせる授業の要素

【教師の視点】(※力とは、基礎的・基本的な知識および技能、思考力・判断力・表現力等)

- ・身に付けさせる「力」が明確になっている。
- ・「力」を付けさせるための手だてが準備されている。
- ・「教えて考えさせる指導」が行われている。
- ・「力」が付いたかどうか、適切に評価され、指導に活かされている。

ウ 子供たちにとって学びがいのある授業の構成要素

【子供の視点】（※学びがいのあるとは、学習意欲がわいてくる授業）

- 子供たち自身が、本授業によってどのような力が身に付き、実生活や実社会にどう生きるのか理解している。
- 学び方が分かる（主体的に「自分の考え」を記述するなど）
- 教材が魅力的である。
- 適度な難易度である。
- 頑張れば認めてもらえる。

(5) 教師の視点 観察シート

「力の付く授業」観察シート【教師の視点】

授業者	
-----	--

番号	項目	当てはまる	たいたい 当てはまる	あまり 当てはまらない	当てはまらない
1	子供に身に付ける「力」が明確になっている。	4	3	2	1
2	「力」付けるための手だてが準備されている。	4	3	2	1
3	「教えて考えさせる指導」が行われている。	4	3	2	1
4	「力」が付いたかどうか、適切に評価され、指導に生かされている。	4	3	2	1
5	先生の発話、学習形態、学習環境等によって、子供たちは主体性をもって学習に取り組んでいた。	4	3	2	1

自由記述欄(気付いた点とアドバイス)	
<p>○ねらいを最初から発表しないことで、子供たちがワクワクしていた。</p> <p>○Cさんの記録、「代表に選ばれた理由」を考えさせたのはよかった。</p> <p>△子供の側にたったとき、本時でどれだけ「本時の学習の意味」を捉えることができたか、授業の最後にモヤモヤしていた。</p>	

【教科】 : から : まで参観

年 月 日 記入者

番号	☆『教師の視点』の具体項目
①	ねらいが焦点化されている。
1	導入段階で、身に付ける力と、その価値、学習活動の留意点を、子供の発達に応じて分かりやすく説明しているか。
1	本時のねらいに、身に付ける「力」が明記されている。
1	子供たちが、活動を通してどのような力が付くのか、分かるようにしている。
②	言語活動 ※指導方法の工夫が、当該教科等固有のねらいの達成に結び付くようにする。
②	個に応じた指導の機会を設定している。 ※指導方法の工夫が、当該教科等固有のねらいの達成に結び付くようにする。
2	問題解決的な学習等の機会を設定している。 ※指導方法の工夫が、当該教科等固有のねらいの達成に結び付くようにする。
2	体験的な学習の機会を設定している。 ※指導方法の工夫が、当該教科等固有のねらいの達成に結び付くようにする。
2	ノート指導において、子供たちが自分の考えの変容を記すことを重視している。
3	「教えること」、「考えさせること」を明確に区別させたいうえで、両者を関連付ける指導の手だてを工夫している。
3	より分かりやすく教える工夫がなされている。
4	評価規準が、「力を付けた子供(観点別評価B)の姿」となっている。
4	観点別評価状況のAおよびCの子供に対応する手だてが準備されている。
⑤	教師の発話によって、子供たちの学習課題が明確になっている。
⑤	学習形態等の工夫により、子供たちが主体性をもって学習している。
5	学習環境等の整備等が、学習の一助となっている。



(6) 子供の視点 観察シート

「学びがいのある授業」観察シート【子供の視点】

授業者	
-----	--

番号	項目	当てはまる	だいたい当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
1	子供たちが、身に付く「力」とその価値が分かる。	4	3	2	1
2	子供たちが、学び方を分かっている。	4	3	2	1
3	子供たちにとって、教材が魅力的である。	4	3	2	1
4	子供たちにとって、学習課題が適度な難易度である。	4	3	2	1
5	子供たちは、頑張れば認めてもらえる授業である。	4	3	2	1

自由記述欄(気付いた点とアドバイス)	
<p>結論があり、それを多面的に考察させる手法として、「同じ結論を異なる見方をしている人を探して、その理由を考えさせた」のは、大変参考になった。また、児童の変容を見逃さないところも、子供たちにとって学びがいのある要素が多い授業であると感じた。</p>	

【教科】 : から : まで参観

年 月 日 記入者

番号	☆『児童・生徒理解』の具体項目
1	子供たち自身が、当該の学習によって「どのような力が身に付き」、実生活や実社会にどう生きるのかについて、理解して学習を進めている。
1	導入段階で、身に付ける「力」とその価値、学習活動の留意点を、子供の発達段階に応じて分かりやすく説明している。
②	ワークシートを作成する際、子供たちが自分の考えを文章で書き込む欄を設けている。
2	子供たちが、主体的に「自分の考え」を記述している。
2	友達の新しい考えや、友達の新しい発見を加えながら、「自分の考え」を更新している。(ノートやプリントなど)
③	教材が、子供たちの知的好奇心を喚起するものである。
3	教材が、子供たちにとって探求しがいのあるものである。
4	当該教材が得意な子供、苦手な子供の立場に立ち、適度な難易度を設定している。
4	個に応じた指導を行っている。
4	習熟度に応じた指導を行っている。
④	手だての有効性について検証している。
5	子供と教師の信頼関係が良好である。
5	子供一人一人のよさや可能性、進歩の状況など積極的に評価している。
⑤	認め合い、支え合い、励まし合う学習集団の風土が醸成されている。

- ※ 学力向上推進委員会では、小学校3グループ、中学校2グループで研究協議を進めてきた。授業観察の際には、グループ毎に「教師の視点」で観察するグループ、「子供の視点」で観察するグループに分かれた。
- ※ 教科に関係なく、学習過程を「1 課題をつかむ→2 一人で考える→3 集団で交流→4 振り返り」とした。このシートをもとにグループ協議・発表を行い、田中先生から指導・講評をいただいた。

(7) 研究授業における学習指導案

○算数科学習指導案

# 算 数 科 学 習 指 導 案

日 時 平成26年10月14日(火) 第5校時

13:40～14:25

対 象 青梅市立河辺小学校 第6学年

授業者 青梅市立河辺小学校 平井 哲

## 1 単元名

「資料を調べよう」

## 2 単元の指導目標

○代表値としての平均や散らばり、度数分布について理解するとともに、目的に応じてそれらを用いて、統計的に考察したり表現したりすることができるようにする。

## 3 単元の評価規準

観点	ア 関心・意欲・態度	イ 数学的な考え方	ウ 技能	エ 知識・理解
単元の 評価規準	集団の特徴を表す値として、平均のよさに気付き、身の回りにおける事柄について統計的な考察や表現をしようとする。	平均や散らばりの様子などを用いて、資料の特徴について統計的に考察することができる。	度数分布表にかいたり、それを読み取ったりすることができる。	代表値としての平均や散らばりについて理解する。

## 4 単元について

### (1) 単元観

第6学年[D 数量関係] 『小学校学習指導要領解説 算数編』より

#### D(4) 資料の考察

(4) 資料の平均や散らばりを調べ、統計的に考察したり表現したりすることができるようにする。

第6学年では、資料の代表値としての平均や度数分布の表、柱状グラフを取り扱うなど、統計的な考察をしたり表現をしたりする能力を伸ばすことをねらいとしている。

#### ア 資料の平均

第5学年の「B 量と測定」の領域の(3)では、測定値の平均について指導してきている。この指導の上に、第6学年では、資料の代表値としての平均について知り、平均についての理解を深めることをねらいとしている。

資料がある範囲にわたって分布しているときに、その傾向をとらえるために、資料を代表する値として平均がよく用いられる。第6学年では、幾つかの数量があったときそれらを同じ大きさの数量にならすという意味を踏まえながら、集団の特徴を表す値として平均が用いられることに触れるようにする。

その際、資料の傾向を表すものとして、資料の散らばりについても指導する。平均が同じであつ

でも、値が密集しているか、分散しているかによって、資料の特徴が異なることなどについて理解できるようにすることが必要である。そのためには、数直線上に値を点で示すなど、散らばりの様子を表す工夫を行う活動を取り入れることが大切である。

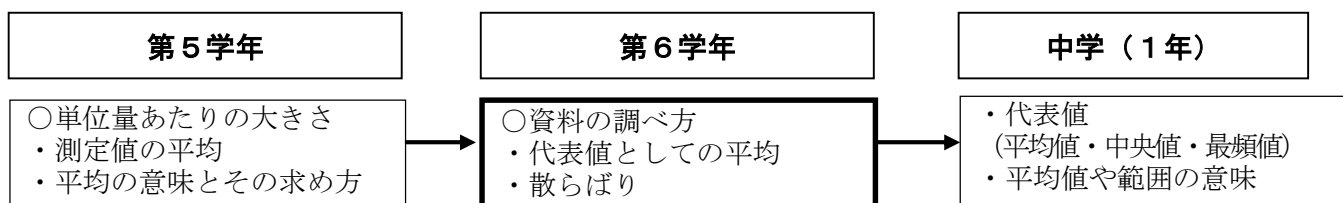
そして、平均を用いて、身の回りにある事柄について統計的な考察をしたり表現をしたりする能力を伸ばすよう配慮することが大切である。

## (2) 教材観

第5学年で平均についての学習をすると、形式的な計算・処理で安易に平均値を求めようとする傾向に陥ることがある。測定値を均等化するために平均を扱うが、どのような数値が均等化されているかを考えることは少ない。そこで具体的な場面と関連付けながら、平均の意味について理解することが大切である。平均値が等しくなる場合、それぞれの数値について、深く考える必要性が生じ、平均の考えがより深まっていくと考える。

本教材は、平均が等しくなった場合にどのように数値を見ていくかにおもしろさがある。数値を根拠に選ぶことにより、説得力が出る。最高値や最低値、数値のばらつき、回数を重ねるごとに記録が伸びていくことへの期待など、様々な視点で数値を見ることができる。そして、それを表現し、交流する中で、数値を多面的に見ることのよさに気づき、平均の意味をより深く理解していく。

## 5 年間指導計画における位置付け



## 6 単元の指導計画と評価計画 (6時間扱い)

時	目 標	学習内容・学習活動	評価規準	
平均と散らばり	1 (本時)	○平均の背景にある数値について多面的な見方で考えることで、平均についての理解を深めることができる。	・平均値の決まっている記録を考える。 ・記録についての話し合いを通して平均だけでは測れない結果を考察する。	<b>考</b> 最高値や最低値など、統計的に資料を考察し、説明することができる。
	2	○代表値としての平均について理解する。	・卵の重さについて整理する。 ・重さの比べ方について考える。 ・比べ方について話し合う。	<b>関</b> 平均で比べることのよさについて気付いている。 <b>知</b> 資料の特徴を調べるときに、平均を用いることがあることを理解している。
	3		・平均を求めて比べることを理解する。	
	4	○資料の散らばりの様子を考察することができる。	・記録を数直線に表し、散らばりの様子を調べる。	<b>考</b> 散らばりの様子を調べる必要性について考え、資料を統計的に考察することができる。
	5 ・ 6	○資料を度数分布表に整理する方法を理解し、読み取ることができる。	・記録を一定の範囲に区切った表に整理する。 ・表を考察して、散らばりの様子を調べる。 ・散らばりの様子を調べると、資料の特徴が分かりやすくなることをまとめる。	<b>技</b> 資料を度数分布表に整理したり、度数分布表を読み取ったりすることができる。 <b>知</b> 散らばりの様子を調べると、資料の特徴が分かりやすくなることを理解している。

7 本 時（全6時間中の第1時間目）

(1) 本時の目標

- ・平均の背景にある数値について、多面的な見方で考えようとする。

(2) 本時の展開

	学習内容と学習活動	指導上の留意点 ※評価																																										
導入 15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を把握する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>3人の子供がソフトボール投げの練習をしました。記録をもとに代表選手を1人選びます。誰を選びますか。</p> </div> <table border="1" style="margin: 5px 0;"> <thead> <tr> <th></th> <th>Aさん</th> <th>Bさん</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>月曜日</td> <td>21m</td> <td>25m</td> </tr> <tr> <td>火曜日</td> <td>35m</td> <td>32m</td> </tr> <tr> <td>水曜日</td> <td>28m</td> <td>33m</td> </tr> <tr> <td>木曜日</td> <td>36m</td> <td>27m</td> </tr> <tr> <td>金曜日</td> <td>30m</td> <td>33m</td> </tr> </tbody> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>問題を把握させる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主発問の前に分かりやすい問題を提示する。</li> <li>・少人数で問題を伝え合う。</li> </ul> </div> <p>T：どのように比べるとよいと思いますか。                  C：最高記録が長いほうがよい。                  C：平均を出せばよい。                  C：計算するとAさんもBさんも同じ長さになるぞ。</p> <table border="1" style="margin: 5px 0;"> <thead> <tr> <th></th> <th>Aさん</th> <th>Bさん</th> <th>Cさん</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>月曜日</td> <td>21m</td> <td>25m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>火曜日</td> <td>35m</td> <td>32m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>水曜日</td> <td>28m</td> <td>33m</td> <td>30m</td> </tr> <tr> <td>木曜日</td> <td>30m</td> <td>27m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>金曜日</td> <td>36m</td> <td>33m</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>T：実は、Cさんも平均は同じ30mになりました。3人とも同じ平均の値でしたが、このクラスではCさんを代表者にすることが多数決で決まりました。</p>		Aさん	Bさん	月曜日	21m	25m	火曜日	35m	32m	水曜日	28m	33m	木曜日	36m	27m	金曜日	30m	33m		Aさん	Bさん	Cさん	月曜日	21m	25m		火曜日	35m	32m		水曜日	28m	33m	30m	木曜日	30m	27m		金曜日	36m	33m		<ul style="list-style-type: none"> <li>・AさんとBさんの記録を提示し、比べ方を考えさせる。</li> <li>・平均について、求め方、計算を全体で確認させる。</li> <li>・Cさんの記録の水曜日のみを提示し、残りの4日を考えさせる。</li> <li>・場面設定が解決に影響するため、場面における質問を受け付け、全体で場面を共有させる。</li> </ul>
	Aさん	Bさん																																										
月曜日	21m	25m																																										
火曜日	35m	32m																																										
水曜日	28m	33m																																										
木曜日	36m	27m																																										
金曜日	30m	33m																																										
	Aさん	Bさん	Cさん																																									
月曜日	21m	25m																																										
火曜日	35m	32m																																										
水曜日	28m	33m	30m																																									
木曜日	30m	27m																																										
金曜日	36m	33m																																										
展開 25分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>Cさんの記録を考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を解決する。</li> </ul> <p>T：どんな記録だったのか、数値を考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(必要であれば)少人数で検討する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>考えを交流させる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と異なる考えを探すなど、視点を交流の際に視点を与える。</li> <li>・少人数で問題を伝え合う。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で検討する。</li> </ul> <p>C：最高値が一番長いから。                  C：一度大きな失敗があるが、他の4回の結果の平均が30mより長いから。                  C：だんだんと記録が伸びているから。                  C：いつも平均してよい結果だから。</p>	<p>※最高値や記録の推移など、平均の背景にある数値について根拠をもって考えようとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代表に選ばれた理由を考えるとともに書くように指示する。</li> <li>・必要に応じてペア学習やグループ学習を用い、自分の考えを明確にさせる。</li> <li>・同じ考え、異なる考えに触れることにより、自分の考えとの検討や友達同士の考えの検討の機会とする。</li> </ul>																																										

まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習感想を書く。</li> <li>・発展問題に触れる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>学習したことを類推させる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平均が異なる。という主発問とは異なる問題を考えさせることにより、学習したことを別の問題を解決するために活用させる。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>何人か D さんを代表にしたらどうか、という意見も出ました。D さんはどんな結果だったのでしょうか。ちなみに D さんの記録の平均は3人よりも短い結果でした。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学習で新しく考えたこと、学んだことを書かせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味があれば家庭学習で考えてくるよう示唆する。</li> </ul>
-----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(3) 東京女子体育大学常任理事・教授 田中 洋一先生（青梅市学力向上アドバイザー）による指導・助言  
ア 授業について

<p>○ 学習指導案がよく書けており、授業の流れもよく、よい授業であった。</p> <p>○ 子供たちに授業の中で思考・判断をさせるには、子供たちの多様な思考を引き出す指導の工夫が必要である。</p> <p>今回の授業では、導入部分がオープンエンドであったが、子供たちの思考、判断を育むための授業展開としては、終末にオープンエンドであることが効果的である。この部分は、検討する必要がある。</p> <p>○ 授業の早い段階から、子供たちの意見を5つにしばって学習活動を展開していたが、子供たちにもう少し考えさせる時間をとり、発言させる場面を多くつくるのが大切である。</p> <p>「自分の意見をもてた」、「他の人の考え（理由）を説明できた」という体験を繰り返しさせることで、子供たちの主体性が身に付いてくる。他の人の発言の理由を考えさせることは、レベルの高いことである。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

イ 考えさせる授業はどうあるべきか？

【子供たちに思考・判断させる授業】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えさせる時間を適切に設定する。</li> <li>・子供たちが、自分の考えが生きたと実感できる授業展開にする。</li> <li>・子供たちが考えたことを無駄にしない授業展開にする。</li> </ul> <p>※知識の習得を目指す授業では、たくさん問題を解かせることになることも多い。同じ教科でも、目的が違うならやり方も違って来る。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 英語科 学習指導案

日 時：平成26年11月27日（木）

5校時13：30～14：20

対 象：第2学年D組 39名

授業者：青梅市立泉中学校 教諭 柳町啓次

場 所：2階 2年D組教室

### 1 単元名

Lesson6 Uluru（三省堂 NEW CROWN 2）

### 2 単元の目標

- ・旅の楽しさと、地域文化を尊重することについて考える。
- ・〔give など+A+B〕や〔look など+A〕の文の構造や意味を理解し、使うことができる。
- ・海外の情報を得るために手紙を書くことができる。

### 3 単元の評価規準

観点 評価	(ア) コミュニケーションへの意欲・関心・態度	(イ) 表現の能力	(ウ) 理解の能力	(エ) 言語や文化についての知識・理解
単元の評価規準	学んだ表現を使って積極的に的（てき）に英語で書いたり話したりしようとする。	①教科書の本文を強勢や抑揚、語と語の連結に注意して音読することができる。 ②〔give など+A+B〕や〔look など+A〕の表現を使って、英文を書くことができる。	〔give など+A+B〕や〔look など+A〕を含む英文を読んだり聞いたりして内容を理解することができる。	①〔give など+A+B〕や〔look など+A〕に関する知識を身につけている。また、表現したり理解したりすることができる。 ②問い合わせの正式な手紙の書式に関する知識を身に付けている。
評価方法	発表、ワークシート	①観察、発表 ②観察、ワークシート	観察、ワークシート	①観察、発表 ②ワークシート

### 4 指導観

- (1) 単元観：言語材料として〔look など+A〕の文構造が導入されている。look という動詞には「見る」という意味のほかにも「～のように見える」という意味がある。生徒には1つの英単語に複数の意味、使い方があるということを認識させたい。また、〔look など+A〕の表現を使えるようになることで、第三者の様子を伝えることができるよう英語表現の幅を広げさせたい。
- (2) 生徒観：クラス全体として非常に反応が良く、教師の発問に対しても積極的に発言する。音読なども積極的に取り組む生徒が多い。一方で、英語を苦手としている生徒も数名いる。そのような生徒には、机間指導の際に積極的に声かけをすることで定着を確認したり、発問をして理解できているのかを適宜確認していく。ペアワーク、ペアリーディング、ライティングなどを通じて英語へのより積極的な取り組みを喚起する中で英語運用能力を高め、4技能を統合的に育成していきたい。

## 5 指導計画（全9時間）

時	学習のねらい	学習活動	評価 法
1	Lesson6 GET part1 ・ give + A + B の表現を理解する ・ 練習問題を通じて新出文法を理解する ・ 新出単語を学習し、定着を図る	・ 導入を通じて新出文法を理解する ・ 練習問題を通じて新出文法を理解する ・ 新出単語を発音しながら意味の確認を行い、定着を図る	ア
2	Lesson6 GET part1 ・ 和訳を通じて内容を理解する ・ 音読を通じて表現力を高める	・ 和訳を通じて内容を細かく確認する ・ 音読、ペアリーディングを行い音声をチェックする	イ ① ウ
3	Lesson6 GET part1 ・ 音読、暗唱を通じて表現力を高める ・ Dictation を通じて音声を文字にする能力を高める	・ 音読、暗唱を行い音声をチェックする ・ Dictation によって音声から文字化の作業を行う	ア エ ①
4	Lesson6 GET part2 ・ look + A の表現を理解する ・ 練習問題を通じて新出文法を理解する ・ 新出単語を学習し、定着を図る	・ 導入を通じて新出文法を理解する ・ 練習問題を通じて新出文法を理解する ・ 新出単語を発音しながら意味の確認を行い、定着を図る	ア
5 本 時	Lesson6 GET part2 ・ 和訳を通じて内容を理解する ・ 音読を通じて表現力を高める ・ オリジナルの文章を作成することで表現力を高める	・ 和訳を通じて内容を細かく確認する ・ 音読、ペアリーディングを行い音声をチェックする ・ 本文をもとにオリジナルの文章をペアで作成し、発表する	イ ① ② ウ
6	Lesson6 GET part2 ・ 音読、暗唱を通じて表現力を高める ・ Dictation を通じて音声を文字にする能力を高める	・ 音読、暗唱を行い音声をチェックする ・ Dictation によって音声から文字化の作業を行う	ア エ ①
7	Lesson6 USE part1 ・ 新出単語を学習し、定着を図る ・ 練習問題を通じて本文の内容を大まかに理解する	・ 新出単語を発音しながら意味の確認を行い、定着を図る ・ 内容理解の問題を通じて本文の内容を大まかに理解する	ウ
8	Lesson6 USE part2 ・ 和訳を通じて内容を理解する ・ 音読を通じて表現力を高める	・ 和訳を通じて内容を細かく確認する ・ 音読を行い音声をチェックする	イ ① ウ
9	Lesson6 の復習 ・ 練習問題、活動を通じて新出文法を理解する	・ 練習問題、活動を通じて新出文法を理解する	イ ② エ ②

## 6 指導の工夫〔活動のねらいを明確にした指導展開をするために〕

- ・ 演繹法を用い、目標を明確にしてから授業を行う。
- ・ 生徒に英語を多く発音させることで英語の発音に慣れさせる。
- ・ 生徒との Interaction を多くする。

## 7 本時について

### (1) 本時の目標

- ・ [look など+A] の表現の復習を通じて、知識の定着を確認する。
- ・ 和訳を通じて本文の内容を理解する。
- ・ 学んだ表現を使って英語で書いたり話したりすることで、表現することができる。

### (2) 本時の展開

	学習活動	生徒の活動	指導上の留意点・配慮事項	評価方法
導 入	Greeting	英語で挨拶する。	・ 声の大きさとスピード、テンポに気をつける。	
	Words Practice	英単語シートを使用しながら教師と英単語を練習したあと、ペアになり練習する。	・ 集中してペア練習をするよう指導する。	
	Aims of today's class	Today's Point のカードを使い、本時の重要文法を確認する。	・ 今日の目標を示す。 ・ Q を出しながら、生徒に集中して聞かせる。 ・ 生徒の理解の様子を見て、スピードに気をつけて話す。	
展 開	Translation	本文和訳を通じて、本文の内容を確認する。	・ 生徒に質問をしながら進めていく。 ・ その時に既習文法も適宜説明、復習しながら行っていく。	ウ ワークシート
	Reading	Phrase by Phrase、Word by Word、Sentence by Sentence など数種類の Reading を行う。	・ 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴に気をつけさせる。	イ①観察
	Individual Reading (1 minute)	1 分間で何回読めるかを数える。終了後は全体で回数を確認する。	・ 集中して1分間読むよう指導する。	
	Pair Reading	2人1組で役割読みの Pair Reading を行う。練習をした後に、3組発表する。	・ 抑揚や強勢、イントネーション、区切りなどに気をつけているか注視する。	
ま と め	Make original sentences Presentation	本文をもとに独自の文章を考え、発表する。	・ 独自の文章を作らせることで、重要文法を使うことができるかを確認する。	イ②ワークシート
	Closing	最後にもう一度本時の重要文法を確認する。 英語で挨拶。	・ 再度、本時の重要文法を確認することで定着を図る。	

### (3) 授業観察の視点

- ・ 本時の目標を達成することができる授業展開だったか。
- ・ 各活動のねらいが明確に感じられる授業展開だったか。
- ・ 教師の発問は明確だったか。
- ・ 生徒の学習意欲が高まる授業展開だったか。



(4) 東京女子体育大学常任理事・教授 田中 洋一先生（青梅市学力向上アドバイザー）による指導・助言  
ア 授業について

- 日本における小・中学校での言語教科は、国語と英語である。国語の時間に学ぶ母語は、もの事を考えるときに使う。このことは、第二言語の外国語との違いになる。したがって、英語の授業の中で思考を深めるには工夫が必要である。
- 授業では、授業後半の「本文をもとに独自の文章を考える」という活動では、思考を育む展開がみられた。また、英語で作文し、「自分で説明する」という学習活動は、子供たちの思考を育てる活動となっている。
- 前半は繰り返して習得する学習で、後半は考える授業になっていた。正しく読もうとすることだけではつまらない学習になる。正しさを追求すると、生徒は苦しくなる。しかし、授業では、生徒たちが楽しそうに英語を使っていた。
- 先生が良い雰囲気をつくっているので、生徒が積極的に参加していた。
- コミュニケーション能力を高めるためには、テンポのよさは必要である。授業のテンポはとともよかった。
- 生徒たちの活動量も多く、「間違えてはいけない」という考えから、発言をためらう生徒がいなかった。

イ 考えさせる授業はどうあるべきか？

- ・ 言語活動をさせることが主目的にならないようにする。
- ・ 言語活動は、あくまでも各教科の目標を達成する手段である。
- ・ 活動の量が多いことはよいが、今日の授業内容だと、学習についていけない生徒もいるのではないかという懸念がある。立ち止まって確認する場面も必要である。
- ・ もの事を考えることは個人的な学習活動である。自己の考えを深め広げるために授業の中で交流活動を行ったら、最後は必ず個に戻すことが大切である。